

## 日本語パートナーズ《台湾第一期》 活動のご紹介(2)

日本台湾交流協会では、2017年2月より、台湾での日本語教育を一層充実させるため、独立行政法人国際交流基金の委託を受けて「日本語パートナーズ台湾派遣事業」を開始しました。日本語パートナーズは、主に台湾の高校で授業で授業を行っている台湾人日本語教師のティーチングアシスタントとして、発音や会話のサポートをしたり、日本文化を紹介したりして、先生や生徒、さらには地域の人たちと交流を深めることができるほか、自身でも現地の文化や言葉を学ぶことができます。この度、台湾一期として2017年2月から6月まで約5ヶ月間台湾へ派遣した5名のパートナーズの、台湾での活動所感を、8月号に引き続き2名ご紹介致します。

### 日本語パートナーズ 台湾1期 那須 英夫

#### はじめに

私は本年2月13日から6月30日まで、独立行政法人国際交流基金から日本語パートナーズ台湾1期として新北市立新北高級中学（以下新北高校という）に派遣された。

日本語パートナーズ台湾派遣実現の経緯他は本誌3月号で詳しく紹介されたとおりである。

日本語パートナーズは主に次の活動を行う。

①中等教育機関の日本語教育の現場で現地日本語教師（以下カウンターパートという）の教育活動をアシスタントとして支援する。

授業はカウンターパートと日本語パートナーズがチームを組んで行うチーム・ティーチング（以下TTという）と呼ばれる方法で行う。

②日本語と日本文化の魅力を伝える。

③派遣国の文化や言語に対する理解を深める。

4カ月半にわたる活動は以下のとおりである。

#### 派遣校新北高校

派遣校の新北高校は新北市の北西部、淡水河左岸にあり、台北市北部の陽明山に連なる山並みを望む。広い敷地に草木の緑があふれ、図書館をはじめとする施設も充実していて学びの場にふさわ

しい環境である。新北高校には文系をはじめとして4コースがあり本年度の全校生徒数は1822名であった。文系の2年生は日本語を含む5つの外国語の中から1つを選び毎週1時限(50分)第二外国語として履修する。352名の文系生徒のうち日本語履修者は139名であった。クラスは4つに分けられて2名のカウンターパートが各2クラスを担当していた。



新北高校

#### 校長先生と二人のカウンターパート

日本人として初めて台湾の中等教育機関の日本語教育の現場に入る初登校は緊張した。期待に沿う活動をすることができるのかという不安もあった。しかし校長先生に着任の挨拶をしてお話を伺いするうちにそれらは和らいでいった。面談の後、校長先生自ら職員室他、諸施設を案内して教職員

の方々に私を紹介してくださった。教職員の方々も笑顔で私を迎えてくださり、細やかな配慮と万全の受け入れ体制に深く感謝した。

上述のとおり二人のカウンターパートと TT を行うが、TT は利点がある反面、カウンターパートと日本語パートナーズの意味疎通が欠けていると授業が円滑に進まないという危険もある。最初にお二人から TT に対する要望を伺い、話し合い協力して生徒が楽しく日本語を学ぶことができる新北高校流の TT を作り上げていくという相互確認を行った。お二人の生徒に対する愛情や日本語教育に対する情熱を強く感じ、不安なく授業に入ることができた。お二人に対する敬意と信頼はその後も変わることはなかった。



二人のカウンターパートと（北投温泉にて）

### 授業の様子

生徒の日本語能力はごく簡単な会話ができるレベルであった。当初生徒は緊張していたがカウンターパートの巧みな TT 運営もあって、次第に私との距離は縮まっていき伸びやかな態度で授業にのぞむようになった。

授業での私の活動は主に次の3つであった。

教科書の音読や生徒の会話相手になるなど日本語のネイティブとして生徒と直接コミュニケーションすること、生徒に日本文化の紹介を行うこと、生徒への励ましや称賛を通して生徒の学習意

欲を促進すること、である。

特に文化紹介はカウンターパートと入念に打ち合わせを行い、一方的な説明にならない様に、生徒が体験できて楽しめる様に工夫した。カウンターパートや生徒の協力も得て茶道体験や相撲、折り紙など7つの文化紹介を行うことができた。



神妙な表情で茶道体験



相撲の紹介（生徒はトントン相撲に夢中）

徐々に、私を見かけると気軽に話しかけてくる生徒や、職員室に私を訪ねてくる生徒が増えて交流にも深みが増していった。私も積極的に生徒に声をかけるように努めた。最後の授業では生徒から過大なコメントの書かれたレターを贈ってもらった。その中に次のようなコメントがあった。「日本語で話すことがこわくなくなりました。」「日本語が面白くなりました。」「忍者は楽しいです。」

### 教職員対象の日本語教室開催

週2回、教職員を対象にした日本語教室を開いた。参加者は各クラス13名であった。

全員ほぼ初級レベルだったので50音から始めたが皆さんとても熱心で自ずと準備にも力が入った。楽しく日本語を学んでもらうように心がけ、単調にならないようにカルタや坊主めくりなどを行ったり、茶道体験など日本文化に触れてもらうように工夫した。レッスンの中で中国語や台湾の文化を教えていただく場面もあり、言語交流、文化交流の場ともなった。



先生も熱くなる坊主めくり



茶道体験

### クラブ活動への参加

1年生と2年生は約30あるクラブから1つを選び、定期テストのある週を除いて隔週クラブ活

動を行う。活動は生徒の自主運営であり教師は関与しない。私が参加したのは日本文化研究部で部員は40名であった。生徒の自主性を尊重して見守りが主であったが、生徒と一緒に大福もちを作ったり、探偵ゲームをしたり楽しく交流し、生徒の柔軟な発想やいきいきとした姿に接することができた。



大福もち作り(小籠包風あり、中身はフルーツもあり)



クラブからの感謝状をもらう

### 先生や生徒との交流および日本コーナーの設置

積極的に先生方と交流するように努めた。最初は先生方と一緒に昼食の弁当を食べることから始めて徐々に交流の輪を広げていった。英語や日本語を話す先生も多く、台湾の歴史や文化、台湾の現状等を教わった。ある先生は「こんな話を日本人とできるとは思わなかった」とおっしゃった。



昼食のテーブル（職員室にて）

生徒との交流では反省することがある。

当初、日本語クラスの生徒にだけ意識が向いて「隠れた需要」があることに気づけなかった。独自に日本語を学んでいる生徒をはじめとして、多くの生徒が日本人と交流できる機会を待っていたのである。もっと早くそのことに気づいて「隠れた需要」を掘り起こすことができたらという思いがある。

目に見える形で日本をアピールするために図書館の一角に日本コーナーを設置した。日本から持参した物を展示することから始めて、周囲の人の協力を得ながら徐々に充実を図った。ささやかな内容であったが、社交の場ともなり校長先生から評価していただいた。



日本語コーナー

## 地域との交流

特定の地域活動はしなかったが、挨拶を交わすことから始めて地域の人たちと積極的に交流するように心がけた。私が住んでいた三重区湊尾街は下町風情が残っていて皆さんとても気さくであった。

日本語を学んでいる人たちが集まるカフェがあり、その場を通じて出自や出身地が違う台湾の人々と交流することができた。また、日本語が堪能でない人も私の拙い中国語に付き合ってくれて、地元の「宮」の祝いの場に招いてくれた。



カフェでの日本語交流

## 思い出に残る出来事

①1968年オリンピックメキシコシティー大会の陸上女子80mハードルの銅メダリスト紀政さんとお会いできた。



紀政さんと（ご自宅にて）

②鉄道の在来線で一日で台湾を一周をした。阿里山森林鉄道を除く台湾の鉄道の全線、全駅を乗りつぶした。

③芝山巖事件の跡地、八田與一氏の銅像のある烏山頭ダム、日本統治時代の建築物他、行ってみたかった所を訪れることができた。

### 最後に

多くの人たちに支えていただき、日本語パートナーズとしての醍醐味を存分に味わうことができたことは得難い体験であり「行った、良かった、また行きたい」というのが率直な思いである。

台湾に対する理解も少しは深まり、出自や言語、文化などの多様性、台湾の将来展望に対する複雑性など諸要因を抱えながらも、「台湾人」というアイデンティティを大切にしている台湾の人のありように触れることもできた。今後ともLINEやFacebookを通じて台湾の人たちと交流を続けて、日本と台湾の一層の相互理解に関わっていきたい。

貴重な機会を与えてくださった、日本台湾交流協会、国際交流基金、台湾教育部、台湾日本関係協会の皆様に心から感謝したい。



窓外に広がる太平洋（台東付近にて）

## 日本語パートナーズ 台湾1期 神尾 秀子

### はじめに

2017年2月13日、日本語パートナーズ5人のメンバー全員で台北に到着した。

6月末までの4か月半、私は高雄市鳳山区にある国立鳳新高校で、現地の日本語の先生とチーム・ティーチングで協働しながら日本語及び日本の文化体験の授業や、先生、生徒、地域の人たちとの交流を通じてお互いの文化・言語などへの理解を深め、両国の架け橋となることを目的とした活動を行った。

### 派遣校の基本情報

国立鳳新高校は、全校生徒約2200人、57クラスある進学校である。生徒達は、非常に礼儀正しく、真面目な印象を受けた。校内は、1日に3回、生徒達が分担して清掃しているのでもいつも綺麗に整えられていた。

生徒は、毎朝7時30分までに登校して授業が始まる8時までは、小テスト及び自習時間となっている。生徒は、高雄市内だけではなく近隣の屏東県などの各地から何台ものスクールバスで通ってくる。帰りのバスは5時25分ごろ出発するので、最後の8時間目が終わる5時15分になるとバスに乗り遅れないようにバス通学の生徒達は、一斉に下校する。

学期は、2学期制で私は後期に派遣された。



高校 中庭

## 日本語の授業

第2外国語の選択科目として高校1年生、130名の生徒が前期・後期に分かれてそれぞれ2クラスずつ毎週水曜日、7時間目と8時間目の2コマを使って日本語の授業を受けている。

鳳新高校では、第2外国語として日本語の他にフランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国語の授業がある。生徒は、学期が始まる前にインターネットで受講する言語を申請するが、日本語は人気があり各言語共定員になり次第締め切られるので急いで日本語の受講の手続きをしたと聞いている。

また、毎週水曜日は私服登校が認められているので生徒達は、それぞれ自由な服装で授業を受けていた。

台湾人の二人の日本語の先生は、共に日本留学の経験があり、日本語は、とても堪能であった。日本語パートナーズの活動にも大変協力的で、3人で相談して工夫しながら授業を行った。

日本語の授業では、教科書を使った日本語の授業の他に日本文化を体験する授業を3回行った。



文化体験・風呂敷

1回目は、日本の風呂敷の歴史についてパワーポイントを使って説明した後、実際にいろいろな物の包み方や、風呂敷でつくるアレンジバッグの作り方を紹介した。

生徒達が特に関心を持ったのが、スイカ包みであった。新聞紙を台湾産のスイカの大きさに丸めてスイカの重さを表現しながら風呂敷で包んでみ

せると、大きな拍手喝采が起きた。

台湾産のスイカは楕円形のとても大きなスイカだが、丸ごと買うとそのまま車のトランク等に入れて持ち帰るので、スイカを丸ごと包むという発想自体とても面白い事だと感じたようであった。最後に、全員でペットボトルや水筒を包む練習をしたが、1枚の布でいろいろな形の物が自在に包める事に興味を示していた。

2回目は、切り絵を経験してもらった。型を折り紙に合わせてハサミを器用に使って複雑な線を切り抜き、団扇にそれぞれ工夫しながら貼りつけて完成させた。



文化体験・切り紙

3回目は、自分自身で着付けが出来るようになる事を目標に浴衣の着付け体験を行った。

男子生徒も女子生徒も積極的にお互いに着付けの練習を行うなど充実した活動となった。

## 日本語クラブ

隔週金曜日の午後2コマを使ってクラブ活動が行われている。3年生はクラブ活動に参加しないので、2年生の団長を中心に10名の役員が中心となって1、2年生、40名の団員をまとめている。クラブの先生は、現在大学3年生で日本語がとても上手な鳳新高校の卒業生であった。

クラブ活動の内容は、基本的には生徒の話し合いで決められるが、団長及びクラブの先生とも相談しながら浴衣の着付け、日本語の勉強、日本文

化、観光地などの紹介等も行った。また、大福作りでは、バナナと餡の組み合わせなど生徒が工夫して、いろいろな味の組み合わせの大福が出来上がった。

日本語クラブの中で特に人気のあるテーマが日本のアニメとドラマであった。生徒はリアルタイムにそれらの情報に接しており現在日本で人気のあるアニメ等を熟知していた。テレビのアニメを見て日本語を覚えて、日本に関心を持ったと話す生徒が多かった。

実際に日本の風物詩について私が説明した後、内容を聞きとれたかどうか聞いてみると数人の生徒が挙手をして、ほぼ正確に内容を答えられる生徒もいた。クラブの生徒の中には、日本語能力検定2級を目指して勉強中の生徒や日本語の塾に通っていると話す生徒も数人いた。



日本語クラブ団員集合写真

### 日本研修旅行 事前勉強会

鳳新高校には各学年1クラスの音楽科がある。大阪府立夕陽丘高等学校にも音楽科があり両校共に共通の音楽科を通しての交流が数年前から続いているが、今回の訪問時に校長先生も同行して両校で姉妹校の締結をすることとなった。

今回は、全校生徒の中から研修旅行の参加者を募り35名の生徒が6月1日から7日まで大阪府立夕陽丘高校を訪問して授業やクラブ活動に参加をした。また、日本人の生徒の自宅でホームステ

イを体験する事となった。学校側から研修旅行の事前勉強会を依頼されたが、生徒の空き時間がないという事で、3月から5月のテスト期間を除く毎週木曜日の昼休みを利用して勉強会をすることになった。

勉強会は、研修旅行の日程に合わせた内容とし、パワーポイントを使って説明した後、会話の練習等を行った。

### 他教科との交流授業

音楽科、英語科、家庭科の授業に参加して交流授業を行った。

音楽科が出場する大会の課題曲が日本の歌だったので、授業に参加して生徒と一緒に課題曲の日本語の歌詞の練習等を行った。また、英語科の先生の依頼で、英語の授業に参加した。日本について知りたい事を生徒がグループに分かれてポスターに書いてその内容を私に質問するという異文化交流を目的とした授業であった。家庭科の先生からは、日本の料理を生徒に紹介したいので調理実習に参加して欲しいとの依頼を受けた。先生と相談してお好み焼きを作ったが、生徒に大変好評であった。写真 家庭科交流授業 お好み焼き



家庭科交流授業 お好み焼き

### 先生方との言語交流

先生方の空き時間を利用して、言語交流の授業を週に5回行った。各グループの先生方の要望に

合わせて授業の内容は少しずつ変えるなどの工夫をした。

パワーポイント等を利用して日本の文化・歴史・地理・習慣・観光地等を紹介した後、教科書を使って日本語の授業をした。言語交流に参加されていた先生方の殆どは、日本に旅行に行った事があり、行き先も北海道から沖縄まで多方面であった。

日本語学習の動機を伺うと、「日本旅行の予定がある。」或いは「退職後日本に住みたいから日本語を話せるようになりたい。」等の答えが返ってきた。



先生方Tの言語交流

日本に対しての関心が深いので、日本語の学習にも、とても熱心であった。

言語交流の授業では、私も台湾人の先生方から

中国語の発音等を教わった。

### 地域住民との交流

地域のお寺で開かれていたチアダンスの練習に週2回参加した。

ダンスの練習を通して地域住民の方々と互いの国の文化や習慣、言葉等への理解を深める事が出来た。



地位住民との交流 チアダンス

### おわりに

学校の先生、生徒、地域住民の方々からいつも親切にしてもらい充実した日本語パートナーズの活動をする事ができた。今後も日本と台湾の架け橋となれるように交流を続けていきたいと思う。